

## 2020年度 第1回・中部地方ESD活動支援センター企画運営会議

# 議事概要

### 1 日時

2020年6月5日（金）13:30～16:30

### 2 開催方法

Web会議

### 3 出席者

（委員）

氏名	所属	役職
伊藤 恭彦	名古屋市立大学 大学院人間文化研究科	副学長
加藤 隆弘	北陸ESD推進コンソーシアム (金沢大学)	ESDコーディネーター (准教授)
杉浦 真理子	株式会社アクト	代表取締役
戸成 司朗	一般社団法人中部SDGs推進センター	代表理事
古澤 礼太	中部ESD拠点協議会 (中部大学国際ESDセンター)	事務局長 (准教授)
水谷 瑞希	信州ESDコンソーシアム (信州大学教育学部)	助教

（事務局） 福井理事長、清本事務局長、原、富田、小松  
（中部地方環境事務所） 萩ノ協課長、西田主査

### 4 議事次第

- ご挨拶 環境省中部地方環境事務所
- 企画運営会議設置要綱の確認
- 地域循環共生圏について 環境省中部地方環境事務所
- 中部地方ESD活動支援センターの2020年度業務の報告
  - 2020年度業務計画（業務内容、スケジュール、設定目標等）について
  - SDGsチェックリストの活用について
  - 主催イベントの開催について
  - その他業務について
- 意見交換
- その他
- 閉会

### 5 会議資料 ※委員には出力資料を送付

資料1：企画運営会議設置要綱（改訂案）  
資料2：2020年度業務計画（業務内容、スケジュール、設定目標）  
資料3：2020年度業務の事務局展開案説明資料  
資料4：SDGsチェックリスト  
参考資料1：地域循環共生圏について  
参考資料2：センターの活動方針

## 6 議事録要旨

### (1) ご挨拶

#### 【萩ノ協課長】

- 新型コロナの感染防止のため、今回の運営会議は web で行うこととなった。不自由なこともあるかとは思いますが何卒よろしく願いたい。
- EPO 中部は、地域の多様な方々に参画いただきながら、環境基本計画を踏まえつつ地域循環共生圏、ESD、SDGs、協働の推進に向けた普及啓発に取り組んでいる。EPO が運営を担う中部地方 ESD 活動支援センターも、専門家をはじめとする多様なステークホルダーとのネットワーク構築を目指し、フォーラム等のイベント開催や、本日の論点の一つになると思われる SDGs チェックリストの作成、それを活用した講座開催など、センター設置前には見られなかった活動を実施してきている。これらの活動にあたっては、皆様からも助言、お力添えをいただいております、この場を借りて御礼を申し上げたい。
- 環境省の施策を地域で推進する拠点である地方環境事務所と ESD センターは、関係する事業の展開や分野を超えた多様なステークホルダーとの関係構築を重要な取組としている。本日の運営会議でも、これまでの活動を振り返りつつ、今年度の事業活動について確認すると共に、本年度の取組課題を明らかにするなど、皆様からのご指導を賜りたい。



### (2) 企画運営会議設置要綱（改訂）の確認

- 事務局による資料確認と「資料 1：企画運営会議設置要綱」の変更点（年度替わりに伴う委員リスト上の変更点）を確認。
- 以後の議事進行は、座長である伊藤委員に一任。

### (3) 地域循環共生圏について

- 中部地方環境事務所による「参考資料 1：地域循環共生圏について」の説明。

### (4) 中部地方 ESD 活動支援センターの 2020 年度業務の報告

- 事務局が「資料 2：2020 年度業務計画（業務内容、スケジュール、設定目標）」「資料 3：2020 年度業務の事務局展開案説明資料」「資料 4：SDGs チェックリスト」について説明。

### (5) 意見交換

#### 【伊藤座長】

- SDGs チェックリストについて、作成に携わった古澤委員から補足や意見などをいただきたい。

#### 【古澤委員】

- 昨年、SDGs チェックリストの作成に関わり、その後の運用については事務局が中心になって実施してきており、PR 及び実践活動をうまく続けていただいている。チェックリスト自体については、おそらく今後、色々な指摘等されるであろう。そうした意見等については真摯に受け止め、修正すべきところを修正していく必要があると考えている。
- コロナの影響について考えた際に、SDGs17 ゴールの真ん中にコロナ問題を置き、ゴールの 1 番から 17 番との関連性を自分なりに書き出すことをしてみた。例えば水に関しては、途上国では水問題があるため手洗い充分にできないといったことがあげられる。このように、



色々な課題を地域で考え、どういう人たちが取り残されるかについて明らかにしていくことが重要と考えている。

- センター主催イベントについては、いずれも良い企画だと思った。白山エコパークの催事に関連して、中部大学は高山市と連携協定を締結し、SDGs 未来都市への応募も行った経緯がある。結果的に落選したが、その後の関係性が途切れる話ではないため、何らかの形で連携できればと考えており、イベントについてもできることがあれば協力したい。
- 学生達から、イベントで事例発表を行ったとして、その後はどうなるのかという話が聞かれるようになってきている。ネットワークフォーラムで学生を集める際、単に事例発表して終わりにするのではなく、その先に向けたビジョンの提示についても検討してもらいたい。

#### 【加藤委員】

- チェックリストについて、様々な業種の方々が自分の立場に置き換えた着手が可能となり、先の見通しをもつための取組を展開する際に役立つのではと感じた。さらに、古澤委員が言われた通り、今後、チェックリストに対する様々な意見をうまく活かし、柔軟に取り入れながら、事例を積み重ねてチェックリストの可能性を増やして欲しい。
- コロナの影響で、大学の授業もほとんどが遠隔で行われるようになってきている。前期の授業はすべて遠隔で行うことになり、全国或いは海外からも学生が授業を受けられるようになっているが、やりづらい部分もある。一方で、従前であれば絶対に Web 会議などを使わなかったであろうベテラン教授が意欲的に教材開発に取り組むなど、人間は状況に合わせて柔軟に対応する生き物なのだ実感しているところである。その意味ではコロナの影響で、時間・距離を超えることができるようになったといえる。東京のみで開催されていた面白い研修会にも、地方に居ながらにして参加することができる。SDGs 関連のイベントの情報なども全国で共有しながら相互に発信できるようになることを期待したい。

#### 【杉浦委員】

- チェックリストについて、良いものができたと思っている。今後はワークショップ等でチェックリストの活用ができるファシリテーターを増やして欲しい。
- コロナにより見通しのつかないことが多くなっており、この社会が持続可能な社会ではないことを実感している。しかし、コロナをきっかけに、地球のことを自分のこととして考える人も多くなっている。SDGs がいかに大切か、それが広まるきっかけにもなってほしい。
- 農協から農家の方たちに配られている冊子がある。今月号では SDGs が 5 ページに渡り特集されていた。そこに、SDGs は実はそんなに難しくない、今すぐできることをコツコツとやってみようとして書いてある。もしチェックリストの家庭版があれば、自分の今の状態をチェックすることもできるのではと考えた。
- 広く不特定多数を対象にするのではなく、ターゲットを絞って今できることを地道に取り組んでいく必要があるのでは。イベント開催などもコロナへの対応に留意した上で、柔軟にできることから取り組んで欲しい。
- 今はツイッターや Facebook など、ネットで社会が動くようになってきている。グretaさんのことをきっかけに若者たちが世界中で動きはじめた。こういう動きをつなげていき、大きなウェーブを起こすことができるようになってきている。無理してイベントを開催するのではなく、柔軟に対応してほしい。

#### 【戸成委員】

- SDGs チェックリストについて質問したい。過去のワークショップでは、誰がファシリテーションを務めていたのか。それに関連して今年度も関連ワークショップ・イベントが計画されているが、これは新しいファシリテーターを養成するという理解でよいか。また、チェックリストの知的財産権などはどのようなになっているのか。
- コロナ問題に関連して、5 月に所属団体から緊急メッセージを発信させていただいた。企業

に向けて、今こそ何をすべきかを幾つか書かせていただいた。アフターコロナについて、企業による SDGs の取組が 2、3 年遅れるという見方があるが、私は違うと考えている。今まで障壁となっていたものが崩れるため、一気にスピードアップしていくであろうと考えている。そのため、企業は早く対応していかなければ大変なことになるというメッセージを発信した。アフターコロナは既に目の前に迫ってきており、企業はその対応にスピードをあげて取り組んでいくべきであると提案させていただいた。

#### 【事務局】

- 去年行ったチェックリストを活用したワークショップ 6 回のうち、仕様書上の正規の 3 回は、EPO 中部の協働コーディネーターの方にファシリテーターを務めていただいた。残り 3 回は事務局がファシリテーターを行った。
- チェックリストの活用を推進するため、先ほど資料説明した通り、まずは 6 月末に活用セミナーを実施し、その後、セミナーで活用方法を体験した方にワークショップを主催してもらうことを企画している。セミナーについてはオンラインの傍聴者も募る予定であり、その人達にもチェックリストが活用されるようになってほしい。
- 知的財産権についてはまだきちんと考えていない。環境省とも相談する必要がある事項であり、この場でも何かアドバイスがあればいただきたい。

#### 【伊藤座長】

- アフターコロナの話で、私も SDGs への取組が遅れることになるのでは懸念していたが、反対に、社会の中で SDGs の良さが改めて認識され、SDGs が社会の基準になっていく方向に動くのではと期待をしている。

#### 【水谷委員】

- チェックリストは主な用途として、SDGs に取り組む最初の導入ツールとして活用されるという意味では、当初の目標は達成できたのではと思っている。ワークショップの運営においては、SDGs をタグ付けして終わるといった、入り口部分のみで終わることのないよう、工夫が必要と考えている。
- ユネスコスクールの学校の取組を審査していく中で、SDGs について取り組んでいる学校はタグ付けの取組を行っていることが多く、また、タグ付けのみで終わってしまっている学校も多い。ユネスコの審査基準で示されている指針の重点活動 3 分野のうち、日本のユネスコスクールでは、持続可能なライフスタイルに関わる活動が多く取り組まれている。一方で地球市民的な部分、think globally act locally といわれているが、act locally は積極的に取り組まれているが、think globally は抜け落ちてしまいがちであることが課題として指摘されている。
- SDGs のタグ付けのみ、或いは、SDGs の何に関係する部分に取り組む必要があるかといった気付きのみで終わらせるのではなく、それが地球全体の課題の中でどういう位置づけにあるかを意識する視点も担保していくことが重要である。その本質が no one will be left behind であり、それを忘れないようにする必要がある。この点は、チェックリストを活用したワークショップの中でうまく取り入れてほしい。
- SDGs とコロナの関係では、なぜ ESD が必要であるかの議論において、今後、予測のできない社会情勢を迎えるにあたり、それに対応できる能力・資質を備えた子ども達を育てることの重要性がまずあげられる。今のコロナをめぐる情勢は、正しくそれに直面している状況といえる。私たちの社会は柔軟なところもあるが、一方で脆弱なところもあり、大人でもうまく対応できる、できないといった両方があることを実感している。ポジティブな動きとしては、遠隔ミーティングや授業が当たり前になっていることなどがあげられる。例えば、対面イベントは多くが中止になっているが、学校が休校になった期間を利用してオンラインの職員研修を実施しようと呼びかけを行ったところ、多くの学校が参加意欲をみせた。さらに、

学校だけでなく役場にも呼びかけ、役場と学校教育の関係者が連携して総合的な学習、ESD の進め方について議論することができた。これは状況に応じた一つのポジティブな側面として捉えられる。さらにこの研修には、九州、東北のユネスコエコパークの関係者など、より幅広い地域の参加者にも参加してもらうことができた。

- しかし、オンラインによるミーティングについては、色々な試行錯誤が繰り返されているところではあるが、フォーマルな運営の会議などは実施しやすいが、ワークショップなどは運営が難しい。このあたりも今後、うまく実施できるものになっていくことを期待したい。

#### 【伊藤座長】

- コロナの関係で遠隔授業が普通になってきており、その状況を活かしていくことも課題になっている。当大学では、一昨日から学生の登校がはじまっているが、登校しにくい学生は遠隔授業のままでも良いことになっている。友人の精神科医が、朝、皆が同じ時間に学校へ行くことは不気味なことであり、学校へ行きたくなくて家で勉強する子がいてもいいはずだと言っていた。今回のコロナ騒動では、社会の色々な問題を考えさせられるようだ。

#### 【福井理事長】

- アフターコロナの話題が盛んになっているが、「エコノミスト」という雑誌で、コロナと地球が戦っていてその後ろには気候変動のポスターが貼られているという絵が表紙になっていた。地球温暖化問題によって、コロナよりももっと多くの死者がこれまでに起きているにも関わらず、全然行動に結びついていなかった。しかし、コロナによって経済構造や社会構造は変化させられるのだということを我々は知ることができた。
- この動きはまた元に戻るかといえば、戻らないのではないかと考えている。テレワークをはじめ、これまでの都市への集中、或いは東京一極集中の構造が変わっていくのではないか。今回のコロナ問題により、SDGs を通して社会を変えなければいけないという意識が浸透し、その気付きを ESD で強化していく必要があると考えている。

#### 【中部地方環境事務所】

- 神奈川県庁の Web サイトなど、自治体によるコロナ施策と SDGs を紐づけた取組を紹介。
- 7月10日開催「環境白書を読む会」を案内。

#### 【伊藤座長】

- 次に主催イベントの関係についての質問、意見をいただきたい。ユネスコエコパークについて、関連する水谷委員の意見はいかがか。

#### 【水谷委員】

- ユネスコエコパークをテーマにしたイベントについては、コロナの関係により、事前調査等がまだできていないため、あまりお話できない状態であるが、学校教育を対象にした内容で進めていくことができればと考えている。
- ネットワークフォーラムに関連して、できれば大学生ではなく高校生が発表できる機会を提供できないかと考えた。ESD 関連のイベントの中でも、高校生はエアポケット的に出番が少ない。小中学校までは色々な発表の機会があり、大学も学生リーグなどで意外と交流の機会がある。高校については先生方からもそういった機会がないかと相談を受けている。高校の発表の機会であれば、長野であればサテライト会場や発表する学校などの候補もあるため、ぜひ検討いただきたい。
- 集積したネットワーク、ノウハウの活用について、過去報告書の公開をぜひ進めていただきたい。加えて、過去に環境省事業として ESD のモデル授業の取組が平成 27 年から前後 3 年くらいで実施されており、そのプログラム集が公開されていたが、現在、その HP がクローズされている。地方のみでなく全国のプログラムが公開されていた。なんとか復活させてほしい。

- 旅行会社と連携した学生を対象としたコンテンツ作りについて、JTBが2年くらい前、同様のものを作っており、志賀高原のものなどを見たことがある。他にも修学旅行を対象にした観光事業者向けのSDGsコンテンツなどを作っている。旅行会社は異なっているが、重複する内容にするよりも、視点を変えたコンテンツに軌道修正してはどうか。
- 地域ESD拠点について、メーリスでの連絡体制を構築するとのことであるが、伝えるべき内容がなければ必要性が感じられない。それ以前の問題としてどういう位置づけでどういう活用をしていくかのビジョンが明確に見えない。
- センターの活動方針については、以前から指摘しているが、ESD活動支援センターは、環境省、文科省が協働して設立したセンターであり、環境省の施策を実現する組織ではなく、省庁の枠を越えてESDを推進する目的をもった施設である。EPOの役割とセンターの役割とを意識し、本来の目的について整理していただきたい。特に学校教育に対するフォローが見えない点などが大きな課題と考えている。
- GAPの中で、多様なステークホルダーが連携して取り組むためのフレームワークを構築することが示されている。それを統合するものとして全国センターがあり、地方センターがある。さらに各地域センターの機能を補完する団体や、直接ESDに関連する支援を行う団体として地域ESD拠点があるという階層構造になっている。地方センターは地域ごとの活動団体のハブであり、中央からの情報や資金を流す役割が期待されている。その意味でも学校教育はESDの重要な要素であり、中部センターにもフォローしていただきたい。

#### 【中部地方環境事務所】

- ネットワークフォーラムについては、前回の会議で大学生に注目したイベントにしてはどうかとの意見をいただいたことが背景にある。また、愛知県や三重県などの自治体から、地域のSDGsに対する学生の意見を参考にしたいといった声があり、うまく連携した行事ができればと考えていた。
- 高校生に関しては環境省が毎年開催している全国ユース環境活動発表大会があり、今年度は例年のように人が集まる形での開催は無理であるが、12月に開催予定となっている。実は昨年、中部エリア7県のうち、長野県からは応募がなかった。今年度、長野県からも応募があればありがたい。県内外の学生と意見交換のできる機会なども設けられているため、ぜひ参加していただきたい。

#### 【伊藤座長】

- 高校生の活躍の場について、名古屋の高校生はそういった場での出番がとても多い。地域差があるのではと思った。そのあたりにも留意した上での企画の検討が必要と思われる。

#### 【戸成委員】

- チェックリストを活用したワーキングなど、この情勢下において、オンラインで何か面白いことができると具体的に事務局が考えていることがあれば教えていただきたい。どういう方法があるのか一緒に考えていきたい。また、ファシリテーターをたくさん育ててほしい。
- JTBは確かにコンテンツ作りなどにも熱心である。学生向けコンテンツについては、これはこれで良いのではと思った。

#### 【杉浦委員】

- オンラインでも、シンポジウムのように聴衆を集めることができると良い。面白い取組を実施している人たちを集めて、彼らに発表してもらおう機会ができることを期待したい。

#### 【加藤委員】

- どういう形でより多くの情報を伝えるか、遠隔を併用するか、遠隔メインで行うかなど、企画の検討が急務となっているが、その後の展開について、ぜひ報告してほしい。特に地域の教育関係の催事についてはぜひ連絡してほしい。
- 今年、全国へき地教育研究大会が富山で開催予定である。大会に集まる先生方は全国各地の

へき地の小規模校の先生方であり、そうした地域ではギリギリなんとか小さな学校を残しているが、将来的には学校がなくなるかもしれない地域である。子どもたち、先生方が一生懸命、学校を守ってこられている。大会の目的は、ほかの地域の良い取組を参加者にそれぞれの地元へ持ち帰っていただき、それぞれの取組にさらに重ねていただくことである。皆、地域、学校の持続可能性についてギリギリのところでも取り組んでこられた意識の高い方々が集まる。今回の富山大会でも、そういった方々に色々な情報を提供することができればと考えている。

- ユネスコエコパークの岐阜県側での催事が企画されているが、ぜひ近隣の白山、小松などとも情報を共有して、出来れば参加者同士の交流へと進んでいく形になればと期待をしている。ぜひ詳細が決まった際には情報をいただきたい。

#### 【伊藤座長】

- ESDの「E」の部分の発信にどう取り組んでいくかが重要となっている。SDGsのみでなく、「E」の支援、連携にもセンターは取り組んでほしい。
- コロナの状況にもよるが、イベント開催については、オンラインを戦略的に活用するなどして、この機をポジティブに捉えた展開も考えるとよいのでは。またそのために知恵をしぼっていただきたい。

#### 【福井理事長】

- イベントではwebをうまく活用し、リアルとネットワークを連動させた形で取り組む必要がある。また、それらのアーカイブをWebで発信していく仕組みも積極的に活用してほしい。

#### 【伊藤座長】

- 事務局から補足などはあるか。

#### 【事務局】

- 教育関係のイベントについて、富山県の「PECとやま」と連携し、高校教員向けのセミナー開催を予定している。詳細が決まりしだい、加藤委員へ情報提供を行いたい。水谷委員には、三年目を迎えるユネスコエコパークをテーマにしたESDダイアログの開催について、この後に相談させていただき、アドバイスなどをいただきながらその実現に向けて進めていきたい。

#### 【中部地方環境事務所】

- 今回のweb会議のように、今後もオンラインをうまく活用していくことで、遠隔地域の有識者にも気軽に登壇していただけるイベント開催が可能になる。特に今は、地方創生クラウドファンディングやふるさと納税の活用などをテーマにした話が聞きたいといったニーズが自治体職員から聞こえてくる。

#### 【事務局】

- 先日、北海道で開催されたオンラインによるワーケーション説明会に参加する機会があった。全国から申込が殺到していたようで、どんな遠隔地からでもオンラインであれば参加がしやすいということを実感した。
- 愛知県のユネスコスクール支援会議に出席した際、県の生涯学習課からSDGsチェックリストを先生方に紹介したいという話をいただき、6月末のチェックリスト活用セミナーを案内した。ある意味、先生方もオンラインの方が参加しやすいのではと考えた。今後の活動展開では、オンラインの活用も取り入れて考えていきたい。

#### 【伊藤座長】

- 今後のセンターの方針やビジョンについてはどのように考えているか。環境省と文科省との連携に関わる課題も提示されている。先日の全国センターでの会議の様子はいかがか。

#### 【事務局】



- ESD 拠点登録の手続きに関しては基本的に全国センターが担い、地方センターが追認するという流れになっている。一昨年度から、ESD 拠点はどのような立場でどのようなメリットがあるのか質問し続けてきたが、明瞭な回答がいただけていないという課題があった。今年度、全国センターの請負団体が変わり、その引き継ぎ作業もある中で色々な滞りもあり、その中で中部センターとして何ができるか模索している状況にある。

#### 【中部地方環境事務所】

- 先ほど、ESD モデル授業についての HP 閉鎖の件について本省に問い合わせたところ、サイト自体で大きな更新が進められており、今後、その見通しが明確になったところで改めてフィードバックをいただけることになった。(後日、過去の環境省事業 (ESD のモデル授業の取組) は、これまでのサイトの閲覧数が少なかったため、今後も掲載されない可能性が高い旨、改めて連絡があった。)
- 文科省と環境省の連携では、両省が環境教育と ESD for 2030 の施策づくりを同時並行で進めているところである。

#### 【水谷委員】

- GAP 後については本省の方で政策ベースでの検討段階にあり、今後、実際の施策として詰められていくのだと理解した。それにあわせて地方センターの目的やミッションも変わってくる可能性があるため、その段階で検討・確認を行っていく必要がある。

#### 【杉浦委員】

- メルマガの配信数について聞きたい。

#### 【事務局】

- 毎月 1 回発行しており、その時その時で異なってはいるが、700 から 800 の配信数で推移推移してきている。

### (6) その他 (今後の予定について)

- 次回・第 2 回会議を 1 月 20 日 (水) 午後に開催予定とすることが決定。

### (7) 閉会の挨拶

#### 【福井理事長】

- 熱心なご議論に御礼申し上げます。引き続き、ESD に力を入れて取り組みたい。
- コロナの影響による行動変容が、既に起きたものから後戻りをするのではないであろうと考えている。社会の変化を踏まえながら、ESD のコンテンツも変えていく必要があるため、引き続きご協力をいただきたい。

